

鍋倉山山スキー（ブナ林パウダーツリーラン）報告

【山城】 関田山脈・鍋倉山

【日程と天気】 2017年12月29日 晴れのち曇り 気温温井スタート時-4℃

【メンバー】 CL 菊池・吉川

【行程】

千葉（わが家）発 3:30-温井（550m） 8:57-西の沢右岸ルート-黒倉山との鞍部
-12:40 鍋倉山山頂（1289m）-北東斜面滑走（標高差約200m）-登り返し-山頂
14:20-北東尾根滑走（ブナの巨木・森太郎を右手に見て滑走）-急斜面滑走-台地
-15:30 温井



・強い冬型が数日続き、上信越では1mほど積雪が増えたエリアが多かった。当初、梅池天狗原・神楽・西大巔などを候補に挙げていたが、29日はまだ弱い冬型が残り、標高の高いエリアは厳しいと考えた。戸狩スキー場の積雪が80cmから180cmに増加したためと、どうやらツアーも楽しめるのではと考え、標高も低く厳しい気象条件で



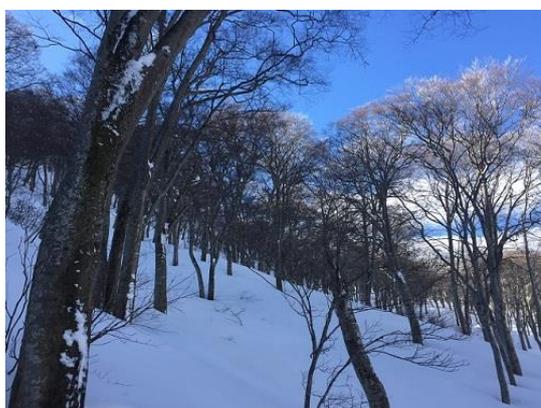
も、なんとかなるであろうと、前日

急遽鍋倉山に転進することとした。気象状況は落ち着いており、温井までのアプローチも問題なし、スタート地点の積雪は 170 cmほどである。天気も小康状態で温井に順調に到着、積雪はこんな感じです。入山者は先行の新潟からの 4 名、中野の単独者、後続は 2 人組と長野の単独者（小生の知人）の計 10 名、5 台のみでした。

- ・前日は降雪模様でしたが、積雪増加はなくむしろ締まってきており、トレースを外してもそれほど沈まなかった。先行トレースを辿って台地に乗り上げ晴れ間が広がり気持ちよいシール登行が続きます。



- ・西の沢の右岸を辿るいつものトラバースルートをハイクアップ。先行者は別ルートでハイクアップしており、ラッセルとなった。



今回は勿論ファットでセンター100 mmのドリフトです。標高は低いですが、北東向きのブナの樹林帯、低温のため雪質は軽くラッセルは苦



労しない。大きなブナの多い樹林帯を気持ち良く進む。新潟のグループは西の沢の対岸（左岸）を進んで沢に降り立ちこちらの方に移動して先行していた。われわれのルートは、下部は急斜面のトラバースが多くやや苦勞するが新潟グループのルートの方が楽である。残雪期には西の沢を始めから最後まで詰めるのが最も効率が良い。

高度を上げるに従い、藪はほぼ埋まった素晴らしいパウダーランエリアになっている。こんな妖艶なブナもあります。テンションがグイグイ上が

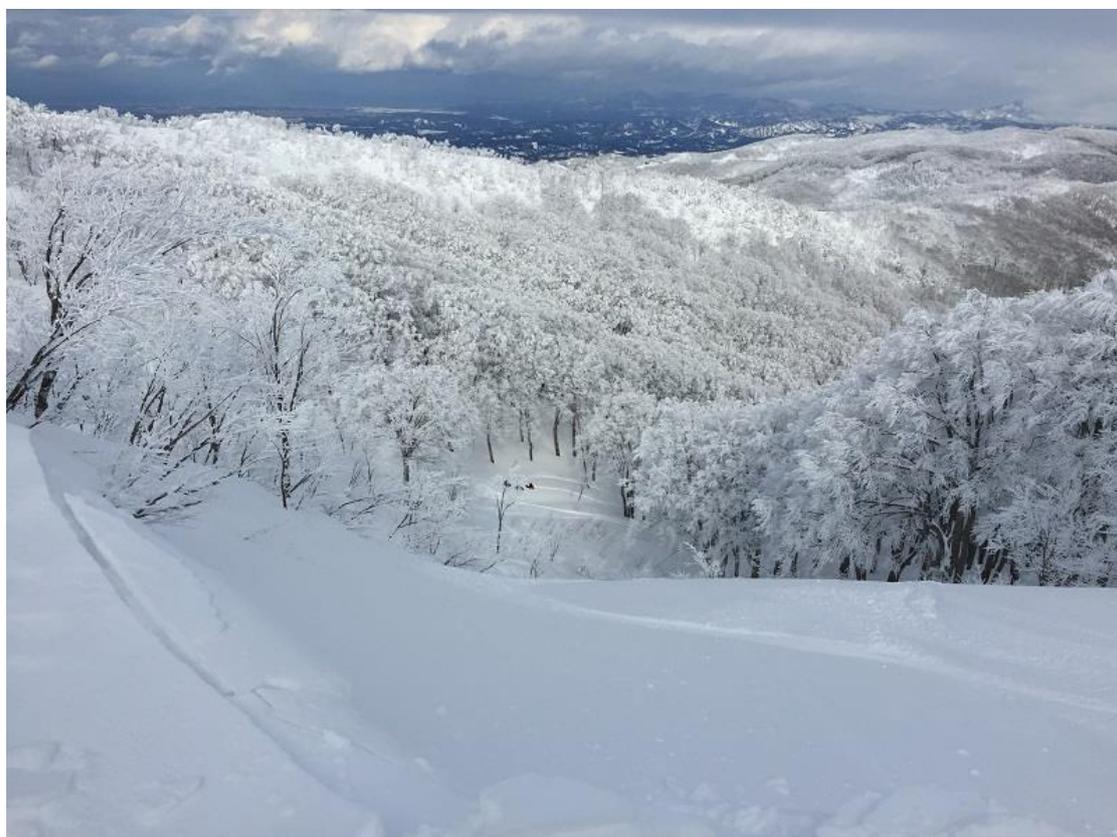
ってきました。

上部に早くもスキーヤーが見えます。新潟組の4名が次から次へと雄叫びを上げながら、(2本目は絶叫とともに)気持ちよくスプレーを上げています。しばらく談笑してみるとなんと、NBSC(新潟バックカントリー倶楽部:小生も所属)の方々を知っており、BCにも同行するとのこと、撮影した写真を送ると約束しました。これは先頭の若く上手いスキーヤーです。2名はボダーでした。

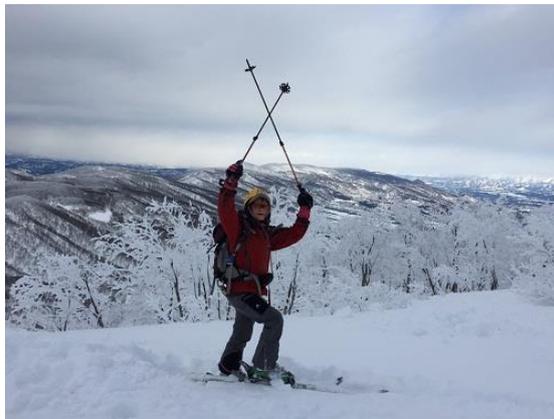


われわれ二人も早く滑りたい気持ちを抑えながら素晴らしい雪花の下を黒倉山との鞍部に向かいます。

稜線からは信越トレイルや日本海が見えます。下に登り返している新潟組が休んでいます。素晴らしいグレイトビューで天にも昇る気持ちです。去年は山頂を踏めませんでしたが今



シーズンは早くも年内に登頂できました。



- ・ 山頂には中野からの単独者が休憩中でした。彼は山頂からエントリーしており登り返したとのこと。雪崩の危険性はないとのことと安心しましたが、一応ピットチェックしました。30 cmほど下に弱層があります。注意して単独者と同じルートで滑走することとしました。積雪は 3mのゾンデでは届かない状態でした。上部の急斜面は慎重に数ターンずつ停止しながら下りました。相棒も気持ちよさそうにパウダーランを楽しんでいます。



上部のこんな気持ちよいブナ林を雄叫び上げながら気合を入れて滑走しました。標高差 200m程登り返し再度山頂に到着、天気は曇りベースで 14:25 スタート、今度は尾根ルートを「巨木の谷」を右手に見ながら滑走です。尾根に乗り移るあたりまでは快適なパウダーランです。尾根に入るとやや藪が煩い所もありますがゆっくり下れば問題ありません。



巨木ブナ「森太郎」も見つけられました。視界良好でラッキーでした。下の台地に下るあたりまでは、気持ちよく滑走できる緩斜面尾根を楽しみ、左の急斜面に飛び込みます。表面が少し雪崩れるような30度を超す斜面を慎重に横滑りなどを交え高度を下げ、斜度が緩むと快適なパウダーランで台地に降りました。田茂木池付近は表面がクラスト気味になってきており、さすがに標高の低いフィナーレは悪雪になっており、怪我をしないよう慎重でした。車のデポ地点で一人雪原を掘っている方がいて、私の名前を呼んでいます。びっくりしてみると、信濃町在住期間に数回山スキーでご一緒したNさんでした。再会の喜びでしばらく談笑しました。スンバラシイ年末の鍋倉山BCを体験できました。鍋倉山「バンザイ」と叫びたくなるようなエリアですね！！

